

研究課題名	2017-050 屈筋腱損傷の予後に影響を与える因子についての検討
実施責任者	名古屋掖済会病院 整形外科 医長 藤原祐樹
研究の概要	<p>屈筋腱損傷の手術後の成績は必ずしも良好ではなく、関節の動く範囲が狭くなってしまうことがしばしば認められています。</p> <p>合併する損傷も多く認められますが、合併損傷が屈筋腱損傷の手術後の予後に及ぼす影響もこれまで明らかではありませんでした。</p> <p>当院の電子カルテシステムから情報を収集して、合併損傷がそのくらい屈筋腱損傷の術後の機能予後に影響するのか、また、最適な治療は何かを検討します。</p> <p>この内容には氏名・住所といった個人を特定できるような情報は含みません。</p>
実施の期間	2009年 4月 1日 より 2017年 12月 31日 まで
研究対象	上記の期間に、当院にて屈筋腱損傷に対して初回治療を受けられました受傷時年齢 18 歳以上の患者様が対象となります。